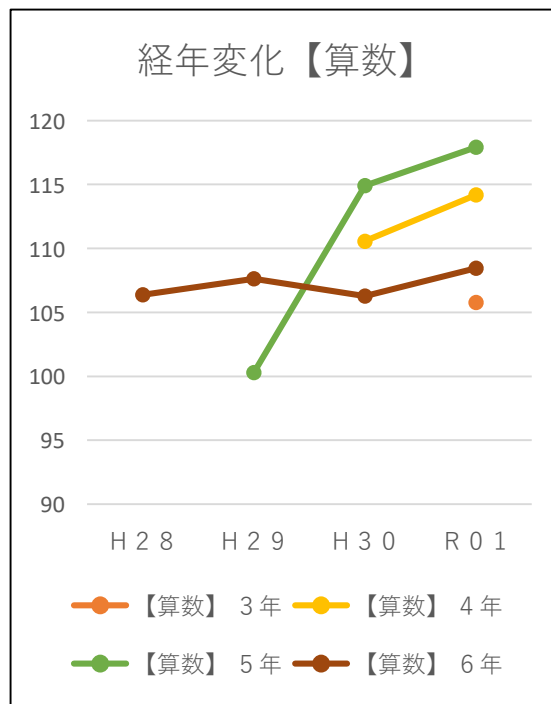
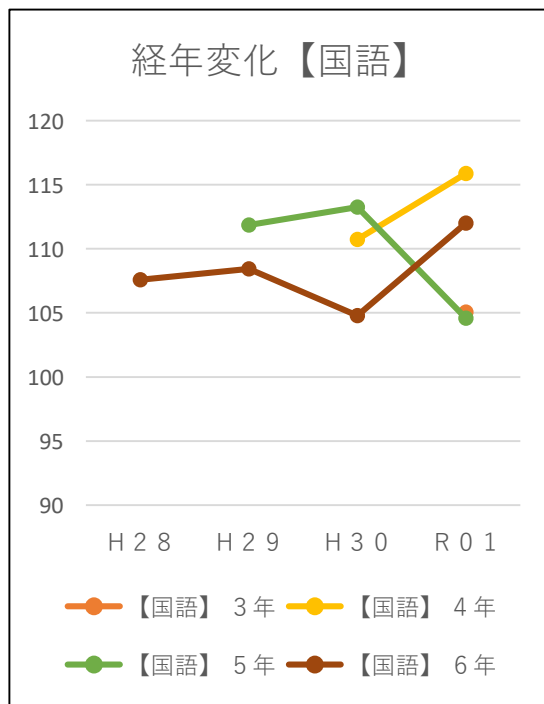


I 現状の把握（令和元年度の釧路市標準学力検査より）

各学年の経年変化（目標値を100とした時の各学年の状況）



※経年変化や到達度の割合から見られる、各学年の特徴や成果、課題を記入

○3年生は、国語・算数ともに目標値を5ポイント以上上回った。

○4年生は、国語・算数ともに目標値を10ポイント以上上回った。経年比較でも右肩上がりとなっている。

○5年生の国語は目標値と同程度、算数は目標値を15ポイント以上上回った。経年比較によると国語は下がったが、算数は右肩上がりとなっている。

○6年生の国語は目標値を10ポイント以上、算数は5ポイント以上上回った。経年比較によると国語は右肩上がりで、算数は同程度となっている。

II 各学年の昨年度における成果と課題、今後の取組

（○：成果 △：課題 ◇：継続する取組 □：新規の取組 ◎：改善する取組）

		成果と課題について	今後の取組について
現4年生	国語	○領域：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝国」 ○内容：「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を書く」「言葉の学習」「作文」 △領域：「読むこと」 △内容：「漢字を読む」「説明文の内容を読み取る」「案内の手紙を書く」	◇重要な言葉や事柄を落とさず、文章全体を読む時間を十分に取る。 ◎説明文の学習において、段落の内容を理解して、文章を読み取ることができるよう授業改善を図る。
	算数	○領域：「数と計算」「量と測定」「図形」 ○内容：「たし算・ひき算」「わり算」「時と時刻」「長さ」「円と球」 △内容：「10000より大きい数」「かけ算」	◇自分の考えをノートにまとめたり、説明したりする機会を設ける。 ◇児童が課題を設定できるような導入を行う。 □プリントを活用して、定着が不十分だった問題の補足的な指導を行う。

		成果と課題について	今後の取組について						
現5年生	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○領域:「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝国」 ○内容:「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」「言葉の学習」「物語の内容を読み取る」「説明文を読み取る」「図鑑を作る」「作文」 △内容:「漢字を書く」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業の導入に音読を位置付ける。 ◇言葉を正しく使えるよう、語句を丁寧に扱う。 □プリントを活用して、定着が不十分だった問題の補充的な指導を行う。 						
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ○領域:「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」 ○内容:「億と兆・がい数の表し方」「わり算」「計算のきまり」「面積」「垂直・平行と四角形」「折れ線グラフ」「数と計算」 △内容:「角の大きさ」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇計算の仕方や問題に対する考え方を記述する際、順序を提示して説明できるようにする。 □プリントを活用して、定着が不十分だった問題の補充的な指導を行う。 						
現6年生	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○領域:「書くこと」「読むこと」 ○内容:「言葉の学習」「説明文を読み取る」「ポスターを作る」「作文」 △領域:「伝国」 △内容:「漢字を読む」「漢字を書く」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業の終末時に学習感想を書く際は、キーワードや字数制限を設けて行う。 ◎授業時には、使用頻度の少ない訓読みや同音異字を意識的に扱うようにする。 □プリントを使用して、児童の漢字の定着状況を評価し、指導にあたる。 						
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ○領域:「数と計算」「量と測定」「図形」 ○内容:「整数のなかま分け」「小数のかけ算・わり算」「分数のたし算・ひき算」「単位量あたりの大きさ」「体積」「合同」 △内容:「体積」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇用語を想起する機会を増やし、考えを説明する際に正しく使えるようにする。 □プリントを活用して、定着が不十分だった問題の補充的な指導を行う。 						
現中1	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○領域:「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝国」 ○内容:「話し合いの内容を聞き取る」「言葉の学習」「物語の内容を読み取る」「説明文を読み取る」「報告する文章を書く」「作文」 △内容:「漢字を書く」 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">1・2年生の成果と課題、今後の取組</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%;">現2年生</th> <th style="width: 50%;">現3年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数のどの領域においても、概ね内容が身に付いている。 ◇効果的にICT・教材を活用した授業を行う。(国語) ◇言葉の意味に気を付けながら、文字や文を丁寧に書くよう、ノート指導を行う。(国語) ◇図を見て立式すること場面の条件に合う問題づくりの機会を増やしていく。(算数) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数のどの領域においても、概ね内容が身に付いている。 ◇文章から条件に応じたキーワードを抜き出すなど、資料活用の問題を解く機会を増やしていく。(国語) ◇既習事項を想起させる等、導入を工夫する。(算数) ◇考えの共通点、相違点に気付かせながら考えを表現できるようにする。(算数) </td> </tr> </tbody> </table>	1・2年生の成果と課題、今後の取組		現2年生	現3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数のどの領域においても、概ね内容が身に付いている。 ◇効果的にICT・教材を活用した授業を行う。(国語) ◇言葉の意味に気を付けながら、文字や文を丁寧に書くよう、ノート指導を行う。(国語) ◇図を見て立式すること場面の条件に合う問題づくりの機会を増やしていく。(算数) 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数のどの領域においても、概ね内容が身に付いている。 ◇文章から条件に応じたキーワードを抜き出すなど、資料活用の問題を解く機会を増やしていく。(国語) ◇既習事項を想起させる等、導入を工夫する。(算数) ◇考えの共通点、相違点に気付かせながら考えを表現できるようにする。(算数)
	1・2年生の成果と課題、今後の取組								
現2年生	現3年生								
<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数のどの領域においても、概ね内容が身に付いている。 ◇効果的にICT・教材を活用した授業を行う。(国語) ◇言葉の意味に気を付けながら、文字や文を丁寧に書くよう、ノート指導を行う。(国語) ◇図を見て立式すること場面の条件に合う問題づくりの機会を増やしていく。(算数) 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数のどの領域においても、概ね内容が身に付いている。 ◇文章から条件に応じたキーワードを抜き出すなど、資料活用の問題を解く機会を増やしていく。(国語) ◇既習事項を想起させる等、導入を工夫する。(算数) ◇考えの共通点、相違点に気付かせながら考えを表現できるようにする。(算数) 								
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○領域:「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」 ○内容:「分数のかけ算・わり算」「面積と体積」「対称な形」「文字と式」「比と比の値」 △内容:「速さ」 								

Ⅲ、学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣作り)

○:成果 ▲:課題

授業 づ くり	<p>○「学習の手引き」があることで、学習規律や授業づくりについて、全職員で共通理解のもと、指導にあたることができた。</p> <p>△研究内容が道徳だったこともあり、学力向上との関連を強く持たせることが難しかった。ただ、児童から多様な意見や考えを引き出すことや児童相互の考えをつなげること等を他教科においても意識することができた。</p> <p>○研修の時間を利用して、全国学力学習状況調査の結果や授業改善について、全職員で共通理解を図ることができた。</p> <p>○問題データベースの活用により、多様な問題を用意し、個に応じた指導の充実を図った。</p>
環 境 づ くり	<p>○校内ノートコンクールを実施することで、児童・保護者・教職員が共通理解を図ることができた。この取組が、記述力向上の一端を担っていると考えられる。</p> <p>○どの学級においてもICT機器を設置し、わかりやすい授業を意識することができた。</p> <p>○漢字検定は年間延べ70名、算数検定に40名参加するなど、力試しに意欲的に挑む児童が多かった。</p>

② 改善の方向性について

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎:改善する取組 等)

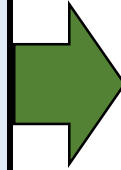
<p>◇「学習の手引き」の活用</p> <p>4月の職員会議の際に、教務部が「学習の手引き」を配布及び説明し、全職員で共通理解を図り、授業改善及び系統的な指導を行う。8月・3月の職員会議の際にも、改善点などに触れるようにする。</p> <p>◇指導方法の工夫改善</p> <p>新学習指導要領の理念を踏まえ、どのような授業改善が必要か研修を重ねていく。また、全国学調や釧路市学検の結果分析を行い、朝学習等で短期的に補充すべきこと、授業等で長期的に指導すべきことを明示し共通理解のもと改善を図る。</p> <p>◇問題データベースの活用と独自の検定</p> <p>算数問題データベースを効果的に活用しながら個に応じた問題や発展的な問題、思考や表現の問題を多く取り組む。また、システムを活用しながら共栄小独自の算数検定を実施し、定着度の可視化や苦手単元への補充を行う。</p>
<p>◇校内ノートコンクールの実施</p> <p>月に1度、教務部が各学級の授業ノート1冊を集め、体育館前廊下に掲示する。ノートを集める際にノート指導についての共通理解を図るようにする。</p> <p>◇ICT機器の活用</p> <p>さらなるICTの効果的活用と教材研究の充実を図ることで、児童の学習意欲を高め、学習内容がよりわかりやすく、定着できるようにする。</p> <p>◇小中連携を活用した力試しの場</p> <p>共栄中との小中連携の1つとして今後も漢字検定や算数検定への合同実施を依頼し、受検機会を位置づけていく。</p>

○「家庭学習の手引き」を家庭へ配布し、家庭の理解を得ながら、自主学習を習慣化することができた。

△児童によって、自主学習の内容や提出頻度に差があった。

○学習規律や持ち物の約束を「基本ルール一覧」にまとめたことにより、全校共通して指導の徹底を図った。

△「元気カード」(生活リズムチェック)の取組を年5回実施し、生活習慣の改善や体力向上に努めたが、個人差があった。



◇「家庭学習の手引き」の配布

4月に教務部が各家庭へ「家庭学習の手引き」を配布し、家庭の理解を得ながら、宿題・自主学習の質的向上を図る。

◎家庭学習の方法がわからない児童への手立て

月に1度、教務部で各学年の自主学習ノートを1枚のプリントにまとめ、各家庭へ配布し、具体例を示したり取組を価値付けたりする。各家庭で取組に対して温度差があるため、全職員で改善策を検討したい。

◇基本ルール

「よくわかる共栄小」の一覧を配布し、共通した指導と家庭への理解をよびかける。

◇元気カード

保護者の記述欄をもとに、家庭でもよりよい習慣づくりができるよう話し合うことを促し、校内でも面談等利用して個に応じた指導を心がける。